

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 泉台 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

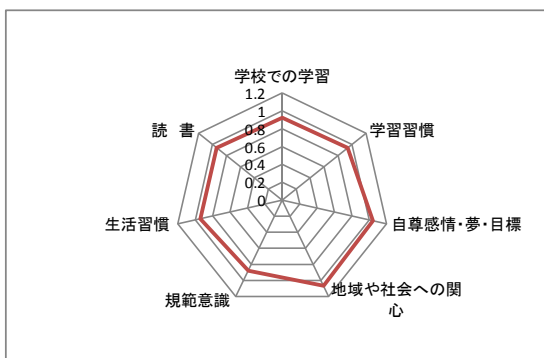
国語A	全体的な傾向や特徴など	・領域「読むこと」や観点「読む能力」は全国平均を上回っている。漢字の読み書きは全国平均並みであり、今後も継続的な指導を行う。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・俳句や古文に関する問題の誤答率、無回答率が共に高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・問題文を正確にとらえ、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いを選択したり、引用して書いたりする力が育っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・動画を見る目的をとらえることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題に課題が残る。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・計算力については、取組の成果が少しずつである。その中で、「量と測定」「数量関係」領域については、一層の定着を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・小数の乗法の計算において、 60×0.4 の答えを求めるために、 60×4 と乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質の理解を問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・資料を表に分類整理したり、その表を活用したりする問題の誤答率が高かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・考え方を選択したり、適用したりする力は付いている。しかし、問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力を育成していきたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・見え方で異なる満月の直径を、硬貨の直径に置き換えて考えた際、基準となる1円玉の割合を基に、100円玉や500円玉と比較し、その根拠を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・ハンカチ・ティッシュを持っているかの調査の表と示された式を、関連付けながら考え、その根拠を記述する問題の誤答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲーム等の使用時間は、1時間未満の割合が減少し、1～2時間の割合が増加するなど、全体的に増えている。また、4時間以上の長時間の利用している児童が全国平均よりも多い。 ・地域や社会への関心が全国平均よりも高く、地域の行事等へ楽しみながら参加している児童が多い。 ・読書への興味・関心の割合が減少している。学習課題の調べ学習に本の活用を結び付ける等、本を手にする機会を増やす取組を進める必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。 ・担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。 ・学力定着サポートシステムの学習プリントを単元末や学期末に効果的に活用し、基礎基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、テレビゲーム等メディアの接触について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。 ・学級懇談会や個人懇談会、学校便り等を通して、家庭学習や読書の価値を保護者に伝え、その徹底を図る。
